

带状疱疹とワクチンについて

带状疱疹とは体内の水痘带状疱疹ウイルスが再活性化し、皮疹と痛みを生ずる病気です。

日本人の15歳以上90%~100%¹⁾の方は水痘に罹患済みであり、体内にウイルスが潜伏しています。

加齢など免疫力の低下により発症しやすくなるため、50歳以上でのワクチン接種が推奨されています。

带状疱疹は繰り返し罹患する場合もあり、再発リスクは5~10%です。発症後は速やかな内服治療が推奨されますが、治療薬を服用しても3~5人に1人が带状疱疹後神経痛（PHN）に移行し痛みが続くことがあります。

带状疱疹予防ワクチンについて

带状疱疹の発症率を低減させ、重症化を予防するとともに带状疱疹後神経痛の発症リスクを低減させます。

带状疱疹予防のワクチンには従来の水痘ワクチンと最近日本でも接種可能になったシングリックスがあります。

	乾燥組換え带状疱疹ワクチン (シングリックス)	乾燥弱毒生水痘ワクチン (従来の水痘ワクチン)
対象者	・50歳以上 (および18歳以上で带状疱疹に罹患する リスクが高いと医師が判断する人)	・50歳以上
種類	不活化ワクチン	生ワクチン
接種回数	2回(原則2~6か月間隔)	1回
当院での接種金額	1回 ¥20,000—	1回 ¥7,000—
接種方法	筋肉注射	皮下注射
発症予防効果	50代:96.6% 60代:97.4% 70代以上:97.9% (どの年齢でも同程度の効果) ^{※1}	50代:69.8% 60代:63.9% 70代以上:37.6% (加齢と共に効果が低下する) ^{※2}
带状疱疹後神経痛に 移行するリスク軽減	・50歳以上:100%軽減 ^{※1} ・70歳以上:85.5%軽減 ^{※1}	66.5%軽減 ^{※3}
発症予防効果の 持続期間	10年以上 ^{※1} (11年以降は試験中)	3~5年程度 ^{※4} (重症化予防効果はより持続)
主な副反応 (添付文書より)	接種部位の痛み、赤み、腫れ、全身の筋肉 痛、疲労、頭痛、発熱、悪寒など	接種部位の痛み、赤み、腫れ、全身の筋肉 痛、疲労、頭痛、発熱、悪寒など

1) 国立感染症研究所, IASR Vol. 39 p133-135: 2018年8月号

※1 国際共同試験 Shingrix Zoster-006・022・049 試験 ※2 Zostavax の SPS 試験 (50歳代は ZEST 試験) 国内での有効性について試験を行っていないため、本質的に同じワクチンとされている Zostavax の試験結果から引用 ※3 Engl J Med, 352:2271-2284, 2005 ※4 Clin Infect Dis. 2012;55(10):1320-1328



〒031-0072

青森県八戸市城下4丁目11-11

TEL: 0178-72-3000